



令和5年11月20日

令和5年度総合震災消防訓練を実施します

東京消防庁では、さらなる震災対応力の強化を図るため、管下全域において、**全消防職員1万8千人及び消防団員を動員**した大規模な総合震災消防訓練を実施します。

関東大震災から100年の節目を迎え、震災時の様々な災害等を想定して、24時間に及ぶ大規模な訓練を8年ぶりに実施します。今回の訓練を通して、昼夜を問わず継続した長時間に及び消防活動等を実施し、今後、発生が懸念される首都直下地震に対する総合的な対応能力を強化します。

記

1 実施日時

令和5年11月25日（土）7時30分 から26日（日）8時10分 まで

2 実施場所

東京消防庁管下全域

3 訓練想定

「令和5年11月25日（土）の朝、多摩東部及び都心南部を震源とする地震が発生し、都内では最大震度7を記録、東京消防庁管内各所で大規模災害が多数発生する。」という想定です。

4 訓練内容

- (1) 非常招集命令伝達及び参集訓練
- (2) 初動措置訓練
- (3) 情報収集訓練
- (4) 通信運用訓練
- (5) 警防本部等運営訓練
- (6) 部隊編成訓練
- (7) 部隊運用訓練
- (8) 火災現場活動訓練（詳細は別図1参照）
- (9) 救助・救急活動訓練

5 取材可能な訓練会場

- (1) 実施場所
夢の島訓練場及び東京夢の島マリーナの一部等
江東区夢の島三丁目1番1号（別図1参照）
- (2) 取材時間
令和5年11月25日（土）19時00分から21時00分
- (3) 参加人員
380名（消防職員350名、消防団員30名）
- (4) 参加車両
消防隊47隊（ポンプ車など47台、可搬ポンプ3台）
その他 消防団可搬ポンプ積載車3隊
- (5) 訓練内容
本会場では、大規模に延焼拡大した火災を想定し訓練を実施します。
ア 夜間における視認性が低下した中で、複数のホースが同一経路を長距離に渡り延長されます。
イ 管轄を越えて応援出動した消防部隊、消防団及び入庁間もない消防学校学生がホース延長及び放水を実施します。
ウ 等間隔に並んだ10線の放水線による延焼阻止線が配備され、火災の延焼阻止を図ります。
エ 活動を継続するための燃料補給体制、故障車両の修理体制等の後方支援や電気自動車を活用した給電体制を確保します。

6 当日の報道受付・説明について

19時00分から報道関係受付場所（別図2参照）で受付、19時15分から取材についての説明を実施します。

7 取材にあたっての注意事項

- (1) 取材を希望する社は、11月22日（水）12時00分までに広報課報道係宛に別添えの申込書を使用して、電子メールまたはFAXでお申込みください。
（メール houdou@tfd.metro.tokyo.jp、FAX 03-3212-1027）
- (2) 取材時は、必ず自社腕章を着用してください。また、訓練会場では安全管理のため、係員から指示があった場合は必ず自社ヘルメットを着装してください。
- (3) 夜間での取材となりますので、各自照明の準備をお願いします。
- (4) 駐車場の準備はありません。近隣のコインパーキング等をご利用ください。

問合せ先

東京消防庁(代) 03-3212-2111
訓練に関すること
警防課警防対策係 内線 3585
報道発表に関すること
広報課報道係 内線 2345~50

無限水利からの長距離送水



夢の島マリーナ船着場から海水を吸水し、送水圧力の維持のため中継にポンプ車及び可搬ポンプを活用し、約1 km先の夢の島訓練場まで65 mmホースの長距離送水を実施します。

複数放水線による延焼阻止線



広範囲に及ぶ延焼規模の火災に対し、複数の放水線を配置し、放水の壁（延焼阻止線）を形成することで輻射熱や延焼拡大防止を図ります。



長時間活動継続のための後方支援体制の確保



震災時には、同時多発的に多くの火災が発生し昼夜を問わず長時間活動を行う必要があります。活動を継続するための燃料補給、照明活動、故障車両等への修理対応、隊員のローテーション等、長時間に及ぶ訓練を通じて相互の連携や後方支援体制要領の習熟を図ります。

別図2 報道受付場所

